

報告

高知リハビリテーション学院図書館報告2012

依光 朋子¹⁾, 酒井 寿美²⁾, 山崎 裕司²⁾

2012 Kochi Rehabilitation Institute library report

Tomoko Yorimitsu¹⁾, Sumi Sakai²⁾, Hiroshi Yamasaki²⁾

要 旨

本論文では、平成20年から平成24年に至るまでの新たな図書館サービスについて報告するとともに、その効果について検討した。

図書館利用者数・貸出冊数増加への取り組みとして、国家試験一問一答問題の導入、図書館ポイントカードの導入、貸し出し状況のフィードバックと表彰、土佐市立市民図書館からの一般書の借り入れを行った。その結果、4年間の間に来館者数は36%増加し、学生の図書館利用率は85%を超えた。

情報検索サービスの充実によって、文献検索数は飛躍的に増加し、年間40,000件近くの検索が行われていた。また、リモートアクセスの導入によって、学外にいる学生の利用が年間4,000件に到達した。

学外への学術情報発信によって、高知リハビリテーション学院紀要から、年間約17,000件の論文がダウンロードされていた。

平成20年から始まった新たな図書館サービスは図書館利用を活性化するうえで有効に機能したものと考えられた。

キーワード：高知リハビリテーション学院図書館、来館者数、貸出冊数

【はじめに】

小森によれば、現代人、特に学生の読書離れや「不読者」という問題は、1960年代ごろから常に読書に関わる人達の間では問題となっている¹⁾。図書館を利用する学生の減少、読書時間の減少が社会的問題となっている近年にあっても、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の養成課程や国家試験勉強において専門書や関連文献を探索し、それを学習に役立てることは必須の行動である。また、佐藤らが指摘するように、「読書」は学びの基礎であり、単なる知識の吸収だけではなく、読解力の向上は学習・研究

の質の向上へと結びついている²⁾。読書習慣や文献検索スキルの獲得は卒後教育の充実を図るうえで極めて重要である。

高知リハビリテーション学院図書館では、図書貸し出し、文献複写相互貸借、リクエストサービス、レファレンスサービスなどを展開し、国立情報学研究所の文献複写相互貸借サービス（NACSIS-ILL）により、文献複写ができる国内で唯一の専門学校図書館である。しかし、利用者数、貸出冊数は年々減少傾向にあった。そこで、本学院図書館の利用者数・貸出冊数の増加、文献検索数の増加を目的として平

1) 高知リハビリテーション学院図書館

The Library of Kochi Rehabilitation Institute

2) 高知リハビリテーション学院理学療法学科

Department of Physical Therapy, Kochi Rehabilitation Institute

成20年から平成24年度に至るまで様々な新サービスを展開してきた。本論文では、その新サービスを報告するとともに、その効果について検討した。

【図書館活動状況】

表1には、平成19年11月から現在に至るまでの図書館サービスを継続的に記載した。

1. 図書館利用者数・貸出冊数増加への取り組み

まず、平成19年11月に図書館の利用者数を把握するため、図書館入口にカウンターを設置した(図1)。

表1. 図書館新サービス

年 月	図 書 館
平成19年11月	図書館カウンター導入
平成20年 2 月	GiNiにて「高知リハビリテーション学院紀要」全文公開開始
平成20年 4 月	年間貸出ランキング掲示開始
平成20年 6 月	医中誌 Web リモート利用開始
平成21年 4 月	図書だよりにて月間貸出ランキング発表開始
平成21年11月	休日開館 後期でも開館開始
平成22年 1 月	国家試験問題一問一答開始
平成22年 4 月	メディカルオンライン利用開始
平成22年 6 月	オープンキャンパスにて図書館開館開始
平成22年10月	土佐市立市民図書館より借受開始
平成23年 3 月	多読者表彰開始
平成23年 3 月	卒業生からのメッセージ展示
平成23年10月	図書館ポイントカード導入
平成24年 1 月	卒業生業績紹介掲示開始
平成24年 4 月	図書館ポイントカード ポイント付与内容変更
平成24年10月	図書館ポイントカード ポイント特典内容変更



図1. 利用者数の調査

1) 国家試験一問一答問題の導入

平成22年1月より、図書館カウンターにて毎日一問、国家試験問題の出題を開始し、5問正解がたまると粗品がもらえるというルールを設定した。これは利用者数の増加と、国家試験勉強への意識づけを図ることを目的とした。現在は、国家試験が近づく1月、2月には国家試験問題の出題数を増加させるサービスを実施している。

その結果、平成21年から参加者数は右肩上がり、平成24年度における3、4年生の参加率は、3学科学生75%を占めている(図2)。また、平成23年以降、1、2年生の参加者数も増加傾向にある。平成24年度の参加者数は約230名で、在学生の40%が参加している状況である。

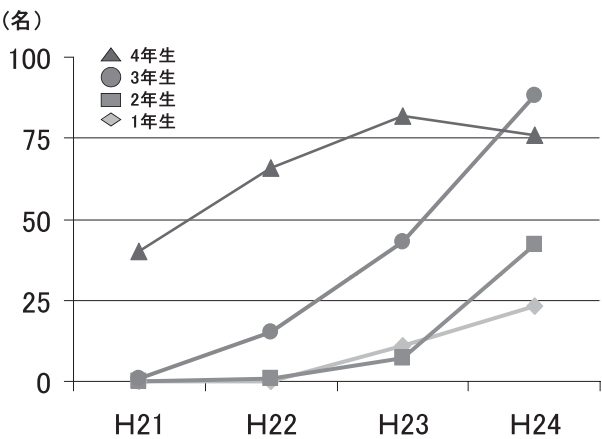


図2. 国家試験問題一問一答の利用状況

2) 図書館ポイントカードの導入

平成23年10月より図書館ポイントカードを導入した。ポイントカードを利用学生に配布し、貸出機会、返却機会、国家試験問題への挑戦について2ポイント、文献相互貸借申込について6ポイントを付与した。合計10ポイントで借用可能図書数1冊増、あるいは漫画本3冊貸出、さらに30ポイントで漫画本10冊の貸出という特典を準備した(漫画本の蔵書冊数は約850冊、通常は借りることができない)。

平成24年4月からは、サービス対象に卒業生を加えた。そして、利用者のポイントカードは図書館が管理することとした。ポイントカードの保管、出し

入れに関する学生の手間をはぶき、利用しやすさを追求したものである。

さらに平成24年10月から、ポイントカードの特典内容の充実を図った。45ポイントで短期実習貸出1冊増（上限1冊）、90ポイントで長期実習貸出Ⅰ期間1冊増（上限2冊）とした。

この結果、ポイントカードの保持率は平成24年度、1年生57.7%、2年生78.7%、3年生97%、4年生98%となった。平成25年度10月時点では、1年生56.4%、2年生87.2%、3年生98.5%、4年生99.3%であり、利用者数はさらに増加している。

図3、4には図書館への来館者数、貸出冊数の推移を示した。平成20年度から平成24年度まで学生数の大きな変化はない。この間、年間来館者数は、27,287人から37,169人へと36%増加した。貸出冊数には、変化が見られなかった。

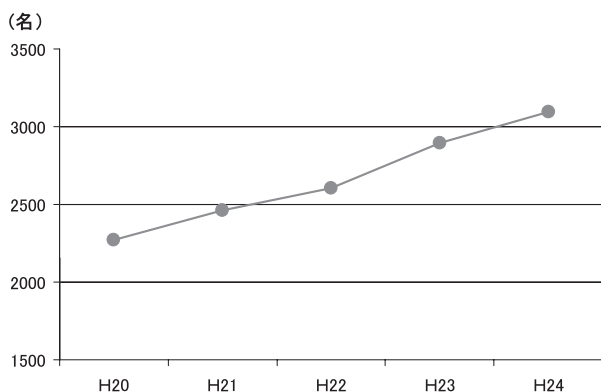


図3. 来館者数の推移

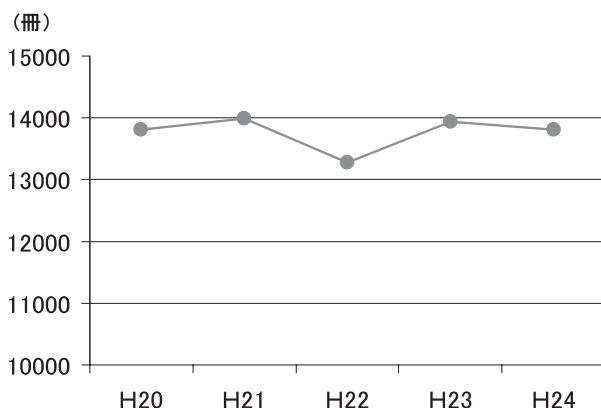


図4. 貸出冊数の推移

3) 貸し出し状況のフィードバックと表彰

平成20年4月より年二回（前期、後期）貸出ランキング上位50名を発表している。年間貸出ランキング掲示が好評であったため、平成21年4月からは図書日より月間貸出ランキングの発表を開始した。さらに、平成23年3月からは、在学中の貸出ランキング上位10名に対して表彰と特典の授与を開始した。

4) 土佐市立市民図書館からの借り受け開始

高知リハビリテーション学院図書館は、医学書を主にする蔵書構築を行ってきたため、一般図書や話題の図書を展示することができなかった。学生に読書習慣を定着させるためには、まず興味のある書籍をそろえ読書行動を強化する必要がある。そこで、平成22年10月から、土佐市の市民図書館から、図書の団体貸出サービスを受けている（年間約2,000冊）。話題の図書や学生からリクエストのあった図書を貸出してもらうことで学生の広いニーズにこたえられるようになった。

2. 情報検索システムの充実

1) 文献相互貸借

以前から図書館内のパーソナルコンピュータ（以下、PC）を利用して、医中誌Webによる文献検索が行われている。検索された文献が学内に無かった場合には、文献相互貸借システムを利用することとなる。高知リハビリテーション学院は、国内で国立情報学研究所ILL文献複写サービス、中国四国九州医学図書室ネットワークに参加している唯一の専門学校であり、全国の大学図書館及び病院図書室間と文献の相互貸借を行っている。

本学院図書館は全国の専門誌を独自のルートで収集・所蔵（279種類）しており、全国から多数の文献複写依頼を受けている。平成24年度のILL文献複写全国ランキングは1,340位中、277位であり、これは高知県内で、高知大学図書館医学部分館、高知大学図書館中央館に次いで3番目の依頼件数となっている。

その他、勤務先病院に図書室がない卒業生からの

文献複写のサービス依頼も受付けている。

2) 情報検索ツールの充実

文献相互貸借システムでは，文献を取り寄せるために1週間程度の時間的ロスが生じる．そして，内容にもよるが，数ページの論文を1本取り寄せるために百数十円の出費を伴う．そこで，時間的・金銭的問題を解決するため平成22年4月よりメディカルオンラインを導入した．これによって学院に未所蔵の論文がダウンロード可能となった．現在は，年に4万件近くの文献検索が行われるようになっている（図5）．

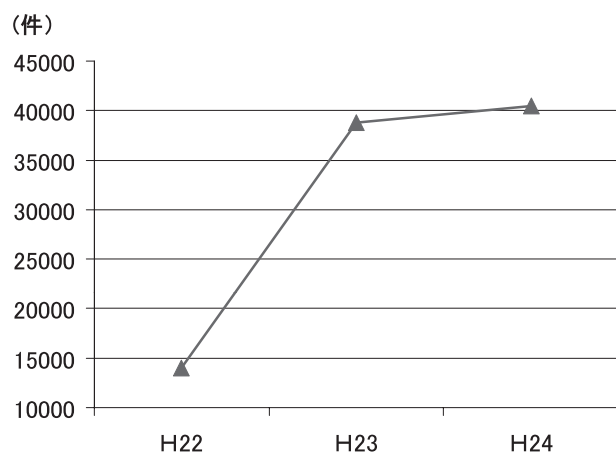


図5. 文献検索サービスの利用状況

さらに，平成20年6月より医中誌Webのリモートアクセスが利用可能となった．リモートアクセスとは，IDとパスワードを使い，学外からでも医中誌Webで文献検索ができるという方法である．これにより，臨床実習の際など学外からの文献検索と本文の閲覧，ダウンロードが可能になった．平成24年3月より，実習前や卒業研究前など事前に検索実習を行う講習を開始した．平成24年度には，学外からの文献検索が4,000件以上行われている（図6）．学生はパスワードさえあれば，医中誌Webで文献検索し，リンクするメディカルオンラインやCiNii, J-STAGE などから本文を閲覧することができる．

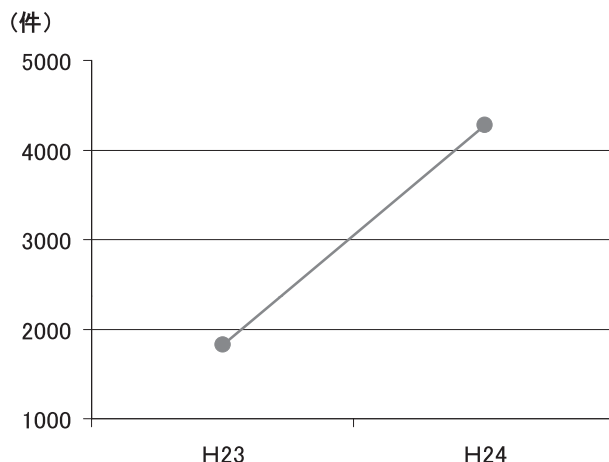


図6. 学外からの文献検索サービスの利用状況

3. 学外への学術情報発信

平成20年2月よりCiNiiにて「高知リハビリテーション学院紀要」の全文公開を開始（http://ci.nii.ac.jp/vol_issue/nels/AA11643653_ja.html）した．紀要論文のダウンロード回数は，徐々に増加し，平成23年度には，17,000件に到達している（図7）．

さらに，学院からの学術情報公開サービスとして，「高知リハビリテーション学院学術情報リポジトリPOST」をJAIRO Cloud（国立情報学研究所共用リポジトリサービス）に参加し，平成25年3月公開（<https://kochireha.repo.nii.ac.jp/>）した．現在，機関リポジトリとして運用を行い，教職員の研究成果を随時発表している．

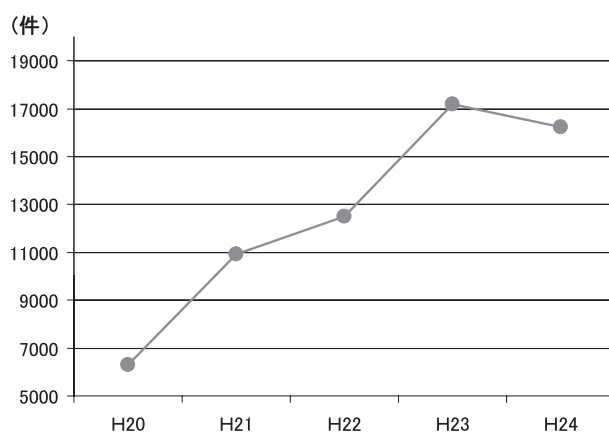


図7. 「高知リハビリテーション学院紀要」ダウンロード件数の推移

4. その他

平成21年11月からは4月～10月のみ実施していた休日開館を（休日開館は平成16年4月より実施）延長した。11月～2月の期間も定期試験や国家試験勉強のために開館することになった。

平成22年6月よりオープンキャンパス日に図書館開館を開始した。オープンキャンパスに来校した高校生や保護者の方に、図書館の様子や機能を見学してもらう環境を整えた。

平成24年1月より、カウンター上に、卒業生の論文や執筆図書を掲示している。在学生が卒業生の活躍を知る場として機能している。

毎月発行の「図書館だより」では、新着図書や図書館利用案内、教員のおすすめ本を紹介するコラムを掲載している。

【考 察】

図書館利用者数・貸出冊数増加への取り組みによって、平成20年以降来館者数は36%増加していた。また、ポイントカードの利用状況からして、少なくとも在学生の85%が図書館を何らかの形で利用していた。全国大学生協同組合連合会「学生の消費生活に関する実態調査」によれば、1985年から2008年にかけて大学生の読書時間は1日あたり50分から29分に短縮し、読書時間ゼロの学生が4割にのぼっている³⁾。4割の学生が図書館を利用していないとすれば、本学院の85%以上の学生が利用している状況は極めて良好といえるであろう。

来館者数が増加したにもかかわらず貸出冊数は、変化しなかった。平成24年度の学生一人当たりの年間貸出冊数は、20冊であった。「日本の図書館統計と名簿2012」の集計⁴⁾によれば、年間貸出冊数は、国公立大学で5冊、公立大学で8冊、私立大学で4冊、短期大学8冊と報告されている。本学院の図書館における貸出冊数は増加していないものの大学の貸出冊数を大きく上回っていた。読書時間が減少し続けている一般大学の状況を考えれば、貸出冊数が維持できていることは肯定的にとらえてもよい結果と考えられる。また、メディカルオンライン導入後、

文献検索件数は飛躍的に増加し、年間40,000件近くに到達している。開館日は200日程度であるため、一日平均で200件近い文献検索が行われていることになる。貸出冊数には変化がないが、情報検索ツールを利用した情報収集量は大幅に伸びているため、総じて考えると図書館を利用した情報収集量は増加していると判断できる。以上のことから、平成20年度から取り組んできた図書館利用者数・貸出冊数増加への取り組みは、良好に機能していると考えられる。

【最後に】

平成26年4月から高知リハビリテーション学院図書館は、別館2階に移動して新しくオープンする。面積は521m²となり、現在の2倍強となる。展示可能冊数は約30,000冊で、これも現在の約2倍となる。また、約12,000冊の収蔵が可能な移動書架を備え、合計して42,000冊の所蔵が可能となる。現在の所蔵冊数は、約20,000冊である。年間に700冊程度書籍は増加しているが、このままのペースで行けば30年間分の図書を所蔵し続けることが可能である。

閲覧席数は現在28席であるが、これが83席へ増加する。また、館内には30名が利用可能なグループ学習室が備えられる。検索用のパソコン台数は、現在の6台から10台に増加する。さらに、館内はインターネットへのフリーアクセスが可能であり、個人のPCを持ち込めば、どこからでも文献検索が可能となる。

手狭だった自主学習スペースが倍増し、情報検索ツールがさらに充実する内容である。これからも新図書館の利用を促進するための新たな取り組みを続けていかなければならない。

文 献

- 1) 小森伸子：大学生の「読書」概念に関する予備的検討。摂南大学教育学研究5：33-44, 2009.
- 2) 佐藤由紀, 近森節子・他：大学生の読書実態と生協組織を通じた学生主体の読書推進運動の構築。大学行政研究2：61-73, 2007.

- 3) 日本出版学会：白書出版産業2010. 文化通信社,
2010.
- 4) 日本図書館協会図書館調査事業委員会(編)：日

本の図書館統計と名簿2012. 日本図書館協会,
2013.